

## 神戸百店会だより



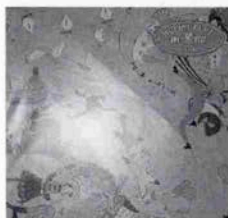
## NEWSWEETS

### ★神戸新夢探訪の洋菓子コンテスト開催

兵庫県洋菓子協会では「ブリスベーンジンジャー」を使った洋菓子コンテストの開催を決定した。このコンテストは神戸市と大手洋菓子メーカー7社（本高砂屋、コスモポリタン製菓、神戸風月堂、ゴンチャロフ製菓、ドン



95年ハイカラ博での神戸新夢探訪のようす



統一の包装紙

ク、モロゾフ、ユーハイム）で構成される神戸新夢探訪実行委員会の「新夢探訪」の商品開発を目的に企画された。

神戸新夢探訪は神戸の洋菓子メーカーが神戸ブランドの洋菓子を全国に向けて発信するために、統一の包装紙に包んで販売。包装紙のデザインは全国に公募し、長田区の女性の作品が選ばれた。今回の「新夢探訪」では神戸港の姉妹港、オーストラリア・ブリスベーンから輸出されているジンジャ

ーを使って、神戸の新しい洋菓子を生み出し、全国に発信しようというものだ。

コンテストは6月5日（木）に野村証券（株）神戸支店にて。参加資格は兵庫県洋菓子協会会員。1位と2位はオーストラリア・ブリスベーン旅行に招待される。

■お問い合わせ・お申し込み  
兵庫県洋菓子協会  
078・871・5938

### ★高架下には海賊登場！

生田筋沿いの高架下にヌッと顔を出している海賊は、4月18日にオープンしたばかりの神戸ベルグループ直営「ファンタジー・ビアレ스토랑・海賊キッチン」。

海賊たちの洞窟の住み家をイメージした店内に入ると、まず、海賊キッチン

の通貨バックカ（1バックカ83（84円）に海賊島銀行でお金を換金しなければならぬ。1人2000円（24バックカ）を最初



高架下にお店があるので柱はそのまま

に替えて、コインで料理と引き換えに支払う。なんととっても目玉は世界最高のアルコール度数だという「海賊ビール」（6バックカ）。キリンビールの季節限定ビールや5月にはキリンの神戸工場ができ、直送のビールも味わえる。海賊たちのように陽気に豪快にお酒が楽しめるそう。

### ■海賊キッチン

神戸市中央区北長狭通1・13

営業時間 11時～14時30分

17時30分～22時30分

078・392・0555

## PEOPLE

### ★男性も和装できめる 和食堂「山里」

ホテルオークラ神戸にある日本料理レストラン「山里」では、マネージャー・奥田悦久氏が、和装のユニフォームを着用。女性の中居さんの着物は、珍しいが、男性マネージャーの漂々しい



和装姿は、神戸初のお目見えとあって話題となっている。ホテル内の和食処という場所柄、結納などの利用も多く、昼のお部屋で和食を楽しんでいたというお客様に違和感を与えないためとか。着付けがだらしないわよ！なんて逆にお客様からアドバイスを受けるなど、まだまだ綺麗に着こなすまでいなくて…とは、奥田氏。いえいえ、趣味で能を舞われている氏の和装姿は、なかなか堂に入っております。

## NEWS

### ★神戸風月堂の 和菓子教室

4月11日にオープンした、こうべ甲南「武庫の郷(さと)」の甲南カルチャー倶楽部で6月より神戸風月堂の和菓子教室が始まる。



講師は風月堂で長年、和菓子の研究開発を担当している田村千

城(たてき)さん。日本独特の色、季節感を取り入れながら和菓子づくりを楽しめる。持ち帰り容器も持参できる。毎月第2金曜日の10時から13時まで。受講料は月額3000円。受講生を現在募集中。なお甲南カルチャー倶楽部会員(年会費3000円)のみ受講できる。

■お問い合わせ先

こうべ甲南「武庫の郷」  
神戸市東灘区御影塚町4・4・8  
078・842・2508

## TOPICS

### ●モロゾフの社長に石原 建男専務が就任

モロゾフは3月24日、石原建男専務の社長昇格を発表。橋本康司社長は会長に、松宮隆男会長は相談役に就任した。

### ●UCCから「コーヒ のつぶやき」発行

UCC上島珈から「コーヒのつぶやき(独白)」が発刊された。著者はUCCの相談役、木村隆吉氏。社内報「カフェテラス」に83回にわたって執筆したものをエッセイ風にまとめ加筆されたものである。

木村氏は平成8年に取締役副会長を辞任するまでの40年あまり、コーヒの輸入、貿易業務を担当。コーヒをさまざまな角度からとりあげたエッセイはわかりやすく奥



深い内容となっている。

### ●神戸オリエンタルホ テルからのお知らせ

新神戸オリエンタルホテル劇場で7月4日から10日まで公演される「イサドラ・When She Danced」主演の元宝塚歌劇団出身の麻美れいさんを迎えるの特別企画、「麻美れいを囲んで楽しむ会」が行われる。



麻美れいさん

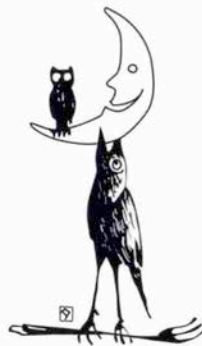
公演中のエピソードも交えた歌とおしゃべりが楽しめる。

日時/7月8日(火)午後6時30分〜8時30分

開場/新神戸オリエンタルホテル10F 真珠の間

料金/お一人様10000円(税金・サービス代込み)

内容/バイキング、フリードリンク付き



★おいしくて安いのが当  
り前！トアロードにまた  
ブラッスリーがオープン

トアロードに、3月1日オ  
ーブンした「ブラッスリーリ  
ュバン」は、「週2〜3回は

来てもらえる店に」と、昼の  
ランチは、780円から、夜  
のコースは3000円と、と  
にかく低価格の設定。

「震災までトアロードにあつ  
た「ヘンリーのおいしい夢」  
っていう小さいフランス料理  
屋さん。あれが理想なんだ  
す」とオーナー。31席ある  
店内は広々としていながら



17時まで生ビール、グラスワインが350円

土壁の暖かさがあり、南欧風。  
カジュアルな雰囲気と価格な  
がらもしっかりした料理。ま  
ずは、ランチで試してみても  
から夜のコースにいつてみて  
は？

■ブラッスリーリュバン

神戸市中央区北長狭通2・5・10  
KOBETICKビル3F

☎078・393・3133

11時30分〜17時（ティタイム）11  
時30分〜15時（ランチタイム）＊お  
すすめランチ¥980パスランチ  
¥800 17時〜24時（ティナータイ  
ム）＊おすすめティナー¥3000

★昔ながらの洋食を味わ  
える店

大丸神戸店9階レストラン  
街にある「神戸開花亭」は昔  
ながらの神戸の洋食が楽しめ  
る店。

「いろいろな料理のベースとな  
るソースは手間暇かけて作っ  
ています」。支配人の土井平  
八さんは基本にいちばん気を



3500円でコースはかなりのお得

使うという。何日も煮込んだ  
ソースを使ったビーフシチュ  
ーやタンシチューは絶品。

支配人のおすすめは意外な  
ところでピラフ。オマール海  
老をベースにしたアメリカン  
ソースをキノコのピラフと混  
ぜて食する。他の洋食店では  
見られない自信作だという。

人気の日替わりランチは1  
500円。「おいしい金曜日」  
というネーミングでコースデ  
ィナーも用意している。一人  
3500円で限定50名様の完  
全予約制。

■神戸開花亭

神戸市中央区明石町大丸神戸店9  
階レストラン街

☎078・321・1838

営業時間 11時〜21時

★お手頃価格で「手打ち」  
のよさを

中山手通からハンター坂を  
少し上ったところに、4月15  
日、そば処「宅庵」がオーブ



落ち着きのある店内

ンした。純和風の落ち着いた  
店内に、心が和む。お薦めは  
何といても、手打ちのそば、  
うどん。きつね、たぬきそ  
ば・うどん600円、ざるそ  
ば・うどん700円、天ぷら  
そば・うどん1300円とお  
値段も手頃。他、丼物もあつ  
てお昼にはちょうどいい。

午後5時からは生ビールに地  
酒と、酒処としても楽しめる。  
「うちは手打ちが自慢」と  
おっしゃる女将さんの味、一  
度試してみてもいい。

■宅庵

神戸市中央区中山手通1・27・11

☎078・221・3366

営業時間 11時30分〜22時

★安くてうまいビールを  
飲むなら…

今年の2月7日にオープン  
した「元町エビス」は、安い、  
早い、うまいが売り文句。い  
たって庶民的な飲み屋を想像  
して訪ねたら、これがおしや



エビス生ビールは380円



竹尾眞美ママ

リエントナル・スークが、4月10日神戸サウナビルB1にオープンした。同店は以前北野坂にあったが、震災で全壊。このほど生田新道で再開した。

広々とした店内には淹が流

れな居酒屋さん。サラリーマンだけでなく、若い女性にもうけるお店だ。おススメは、元町エビス特製唐揚げ（380円）、スルメイカの韓国キムチ風（280円）、スモークタン（480円）に日替わりメニューなどがある。

JR元町駅前という利便性を活かして、会社帰りに立ち寄るもよし、仲間でパーティーを企画するもよし、楽しみ方はいろいろ。感じのよい店員さんが出てきてくれる。

■元町エビス  
神戸市中央区北長狭通4・3・24  
☎078・321・0222  
営業時間16時〜24時（ラストオーダー23時）年中無休

★六甲坂道を祝う花畑・生田新道に朗らかな歌声

「三宮にもネオンをひとつ灯したい」。店いっぱい埋め尽くされたお祝いの花畑のなかで、にっこり話するのは

「六甲坂道」のママ竹尾眞美さん。3月26日、生田新道のKSMビルにオープンした。

もともと阪急六甲にあったお店ではお母さんの天美さんがきりもりしていた。新しい店を眞美さんへバトンタッチ、親子二代にわたるお店ということになる。「陽気に楽しくやってください」と静かな六甲のお店とうって変わって、カラオケを設けた。

26日には同じKSMビルに「終（ひいらぎ）」がオープン。ビルの被害が特にひどかった生田新道に歌声が朗らかに響きわたる。

■六甲坂道  
神戸市中央区下山手通2・11・1  
KSMビル4F  
☎078・334・3333  
営業時間18時〜24時 日休

★震災から復活 生田新道店オープン

居酒屋最盛屋グループのオ



インド職人の本場の味を

リエントナル・スークが、4月10日神戸サウナビルB1にオープンした。同店は以前北野坂にあったが、震災で全壊。このほど生田新道で再開した。

神戸市中央区下山手通2・2・1  
神戸サウナビルB1  
☎078・334・0700  
営業時間 日〜木／17時〜24時  
金・土・祝日前／17時〜3時（各曜日ともオーダーストップは終了1時間前）

《お詫びと訂正》  
4月号に掲載いたしました「ピストロ大平亭」の掲載事項に誤りがございました。

営業時間は ランチタイム11時30分〜14時30分、ディナータイムは17時〜22時（ラストオーダー21時30分） 年中無休となっております。

■ピストロ大平亭 神戸市中央区北長狭通2・9・9 デザフィオサンコービル1F  
☎078・393・3590  
《ランチコース》¥1500（サラダ・スープ・肉か魚・パン・コーヒーマン・アイススクリーム）  
¥2300（サラダ・スープ・肉と魚・パン・コーヒーマン・アイススクリーム）  
《ディナーコース》¥3000（オールドブル・スープ・パスタ・アイスクリーム・肉か魚・パン・コーヒーマン・デザート）  
¥3800（オールドブル・スープ・パスタ・アイスクリーム・肉と魚・パン・コーヒーマン・デザート）

## ポケット ジャーナル



### ★フランス災害救助犬チーム来日

被災地神戸にフランスの災害救助犬がやってくる。あの阪神・淡路大震災では、フランスから60名の災害救助特別部隊と4頭の災害救助犬が派遣された。4頭の救助犬はいずれもフランス民間救助団体(COSI)が養成したもので、



左からコスト氏と大山本部長

彼らの災害時の迅速な救助活動に驚かれた人も多いだろう。

そこで、災害救助犬の活躍がまだ浸透していない日本で、世界でもトップレベルのフランス救助犬の活躍を知ってもらい、その理解を深めて

もらおうと、5月24日、25日の両日、救助犬の公開デモン

ストレーション及びCOSI会長、ルイ・コスト氏、指導教官・フランソワーズ・ロストランド氏の講演会が開催される。

●災害救助犬の公開デモンストレーション

とき 5月24日(土) 10時

ところ 兵庫県三田市災害トレー

ニングセンター 三田市上内神学

長井1208・1

●講演会テーマ「フランスにおける

災害救助犬の全貌と海外での活躍

講師 COSI会長ルイ・コスト

氏、指導教官フランソワーズ・ロス

トランド氏

とき 5月25日(日) 13時~17時

ところ 神戸新聞松方ホール

078・3662・7111

### ★サントリーレディスオープン ギャラリー招待券プレゼント

日本女子プロゴルフ協会公

認競技「We Love KOBE サン

トリーレディスオープンゴル

フトリナメント97」が、来た

る6月11日(水)にアマプロ

チャリティートーナメント、12日(木)~15日(日)に予選決勝ラウンドとして兵庫県・有馬ロイヤルゴルフクラブで開催される。

1990年にスタートしたこの大会は、タレントや文化人が数多く参加する華やかなアマプロチャリティーナメントなど、多彩な企画でゴルフファンには好評。

今年も、野球評論家の大沢啓二さん、山本浩二さんをはじめ、「のほほん茶」のCFでお馴染みの市田ひろみさんなど、豪華メンバーの参加が予定されている。

今回は、このトーナメントのギャラリー招待券を読者にプレゼント。詳しくは左記の通り。

### ●プレゼント

「We Love KOBE サントリーレディスオープン97」のギャラリー招待券(5000円相当)をペアで10組20名様。

■応募方法 官製はがきに(1)郵便番号、(2)住所、(3)氏名、(4)年齢、(5)職業、(6)電話番号を明記の上、

〒530 大阪市北区天満橋1・

8・30 OAPタワー30階

HHDD「サントリーレディスオープン チケットプレゼント月刊神戸子係」までお送り下さい。

■応募締切 5月31日(必着)

■お問い合わせ サントリーレディ

スオープン事務局 ☎06・346・

1238

### ★誕生日ありがとう運動 大泣き大歓迎



M学園の小さな小さな子供達。毎週がランディアのおはなす達と2時間ほど山登りをします。歩行困難な子は学園のまわりを歩く程度。元気いっはいの子は高取山の頂上まで走り登って行きます。ポランディアさんの体力に合わせて子供が担当されていきます。

4月、これから一年間、一緒に歩く子供達との対面です。子供にとっては全くの知らない人。安心できる人なのか、わがかるはずありません。先生に驚愕されないかも。何が何かわからないまま山登り散歩は始まりです。

山の中に入ると木は生い茂り、うす暗い鬱陶気です。道も人が通れるぐらいの細い道。大泣きの要索はいっぱい。泣いて当然。

言葉の出ない子供にとって気持ちる。甘える等の身体表現です。大声を出したり、つかんだり、かんたり、投げたり、これぞ心の伝言なので。大泣きしている子は「わい、わい、しんどいよー。」と、訴えているのでしょう。気持ちを表現できることは、とても素晴らしいことだと私は思っています。大泣き大歓迎です。

「三三三」笑いがあふれ安心しきって散歩できる日を夢み、泣き虫さんとポランディアさんのおつきあいははじまります。(M・E)

誕生日ありがとう運動本部  
〒650 神戸市中央区橋通4・2・2  
菊水模型ビル3F (湊川神社西

TE・FAX078・3660・1227

## ★スイス航空40周年記念行事に「日本の春」

去る3月28日～30日の3日間、スイス・モントルー市で開催されたスイス航空40周年記念行事に、「日本の春」と題して、女流書家・望月美佐さんをはじめ、日本の文化人数名が招かれた。望月さんは、初日に「友情」ほか、モントルー市の花である「薔薇」など、4点の書を披露し、各界の来賓から称賛を浴びた。

同時に文楽、琴、日本舞踊なども行われ、日本とスイスの文化交流がすすめられた。



望月美佐さん

## ★お菓子の今田美奈子さん神戸ではじめての講演会

新神戸オリエンタルホテルの「はる爛漫フェア・幸せを招くお菓子とテーブルセッティング」が、3月20日真珠の間で開かれた。神戸で始めての今田美奈子さんの講演とあ



今田美奈子さんの優雅なお話がいっぱい

初老のご婦人まで幅ひろい層が集まり、軽食とワイン、ケーキと紅茶でハイティタイムを楽しんだ。

「今日このパーティーにお集まりの方々は上昇運の方ばかり。お菓子が好きという程度で始めたお菓子づくりも、お菓子を愛する人に恵まれて、全国をこうしてまわれるようになりました。女性が女性であることを謳歌する時代」とお菓子文化の豊かさ、ヨーロッパの王侯貴族のおもてなし文化、お菓子や紅茶にまつわるエピソードや歴史背景など日常生活では知ることのない話に耳を傾けた。

会場にはウィクトリア女王の正式なアフタヌーンティのためのセッティング、メデイチ家が使っていたものと同じアーカンサス模様の食器類など貴重なテーブルセッティングがなされ、ご婦人たちの目を奪っていた。

## ★CWAJから被災女子学生に教育援助金

カレッジ・アソシエーション・オブ・ジャパン(CWAJ)は、阪神大震災教育援助計画を昨年に引き続き実施し、関西日米婦人会(JAWK)が募集した7名の女子学生に500万円を援助。4月3日、ポートピアホテルにおいて開催されたJAWKの英語落語の会の後、贈呈式が行われた。



贈呈式

秋田瑠美子(CWAJ広報担当)さんは、「優秀な女子大生が震災で勉学の継続に困難を生じており、多少の助けになればと願っています」と語った。

■CWAJ  
045・434・2620

## ★生涯学習会館が須磨に開館

「競育」から「共育」へと、財団法人・総合教育研究財団(理事長・糟谷日出男/館長・鯉坂二夫)が、4月13日に開

## ■神戸の本棚

★「緊急援助とボランティア—アルワンダから神戸へ」  
目良 誠著



河出書房新社  
1200円

歯科医師でありながら民間救助組織を主宰、代表を務める目良誠氏は、阪神大震災で自ら被災者の一人となった。

「援助される側の自立」の難しさを身をもって体験した著者が、緊急援助の現状と課題を伝える一冊。ボランティアの原点を考えさせてくれる。

## ★「KOBAYASHI 洋菓子物語」村上 和子著



神戸新聞総合出版センター1680円

神戸で育ち、洋菓子を心から愛する著者が、神戸中心の72店を厳選。美味しいケーキと裏で腕をふるうシェフの素顔を紹介する。

また、神戸の洋菓子文化をここまで築き上げた歴史に触れ、貴重な写真と共にそのルーツを探る。チーズケーキやチョコレートといったお菓子の文化史を語る「おいしいお菓子の物語」のコーナーも楽しい。

館。須磨の浦女子高のマーチングパレードでオープン。

鯉坂二夫館長は「質の高い生涯学習を推進したい」と。

（財）総合教育研究財団の創立以来16年の集約ともいう



パレードのようす

べき学校と家庭と地域が共に育む「生涯学習会館」に、新しい世紀の人材育成を期待したい。

#### ■生涯学習会館

神戸市須磨区中落合3・16・14  
0078・7991・8888

#### ★ギャラリーあじさいで神戸市立陶芸館選抜展

4月15日～20日。センタープラザ東館2階のギャラリーあじさいで、神戸焼末汎窯・南汎さんが指導する神戸市立陶芸館の選抜展が開かれた。ワイン城の中にある陶芸館も



ギャラリーあじさいにて

10周年、日頃の成果を発揮した作品は力作も多く、めざましい成長ぶり。菊本光子さんの遺作展も併催され、くらしの器の安価な提供も好評。

## 花時計



### 市民主導の「街づくり」を

震災後早くも2年と3ヶ月を経過して、3年目の夏を迎えようとしている。が、被災されて、現在も仮設住宅の厳しい環境で生活を営まれている方も少なくない。

震災復興の第一ステップはこ

の仮設住宅の解消だと言わなければならない。

一方では、神戸の街がよりよい姿で復興を果たさねばならない。元来、神戸の街づくりは官主導のプロジェクトに頼るところが多いと言われてきた。そして、それなりの成果を挙げてきた。しかし、時代は大きく変化しつつある。小さい政府を臨む規制緩和を基調とする流れがある。これからの街づくり、震災復興への道は、市民主導のプロジェクトになるべく配慮しなければならない。神戸の街は、実験都市と呼ばれる規律正しい、生活者の住まう街であることを誇りとしている。

震災復興をめざすプロジェクトも出揃ってきた。1、上海・長江プロジェクト。2、WHO健康開発センター。3、ポートアイランド第Ⅱ期工事に係わる事業として、神戸起業ゾーン整備構想があり、財団法人新産業創造研究機構が立ち上げられている。4、KIMEC・ワールド構想をすすめる、「キメックワールド事業化研究会」も設立されたと聞く。

震災復興の柱である被災地の街づくりでは、100を超える地元「街づくり協議会」が立ち上がり、神戸方式による街づくりが行われる。頼もしい限りだ。

〈Y・Y〉

## KOBE POST

★4月25日神戸ファッション美術館が開館。館長に緒方学（市助役）、副館長に鬼塚嘉八郎（財団法人神戸ファッション協会会長）、真深健治、事務局長・平柳英夫氏が就任されました。

★（株）大月真珠の大月真男代表取締役社長が4月より会長に、大月京一氏が社長に就任され、又、大月四郎氏が副会長、大森正範氏が副社長、赤田茂氏が取締役就任されました。

★知香流の家元・成瀬香梅、副家元の香泉さんが元の深田町に再建戻られしました。〒657神戸市灘区深田町2・3・4 TEL078・851・8113 FAX851・3305

★石野証券相談役の石野順子さんが移転。〒659芦屋市翠ヶ丘町6・16・404 TEL0797・35・2191 FAX35・2199

★漫画家の高橋孟（刀蔵）が、3月29日に肝臓ガンで亡くなられ、4月1日ご葬儀が、喪主は長男の芳園さんでした。

★科亭「吉兆」の創業者で文化功労者の湯木貞一氏が4月7日に老衰のため亡くなられ、13日社葬が自宅・吉兆本店で。葬儀委員長は宇野収東洋紡績相談役、喪主は本店社長の長男・敏夫氏

★株 ペアーズ社長菊地由緒さんの父菊地吉雄氏が亡くなられ、4月16日戸屋ホールでご葬儀が、ご冥福をお祈りいたします。

★甲陽音楽学院院長の菅内孝憲さんが4月5日甲南教会忍さんとゴールデン。神戸ベイシエラホテルで、二人を祝うワインパーティーを開催。

★古寺奏者の伍芳さんが、テナー歌手藤清水さんのご子息正隆さんと5月18日にゴールデン。新宿〒650中央区宮町4・21・3サンシャイン三宮 番館1004

# K.F.S. NEWS 176

神戸ファッション市民大学OBによるグループ  
神戸のファッション都市化をめざす

事務局／神戸市中央区下山手通3-1-18  
ツインストアビル4F 月刊神戸っ子内  
TEL.078-331-2246

## ●会員ショップシリーズ「メンズファッションブティックカタライザー・中村理恵さん」 女性ならではの感性を生かせるメンズショップに…

KFSでは副会長で総務を担当する中村妙子さんの一人娘、理恵さんが短大を卒業してお店を手伝いはじめたのは、今から3年前。ファッション好きだが、業界の知識は皆無だったという理恵さんは、まさにこの世界に入ってから毎日が勉強の連続だったそう。

\*

一お客様に楽しんで買ってもらえるお店にしたい。それが社会人としてスタートした時に言われた最初の言葉。今でもこれは、常に心がけています。カジュアルスーツを主体とした品揃えで、客層は、20代後半から30代前半の男性が中心のお店をまかされている。一お客様との会話が大切。はじめてのお客様との接点を見つけることが難しいですね。お店に入ってから、一番最初に手に取られた商品のカラーやデザインは、その人を店に呼び込んだ大切な要素。見ていることを悟られないように、お客様の一挙手一投足をチェックして、好きなファッションラインを瞬時に判断し、そこから会話の糸

口を見つけます。

一今、悩んでいるのは、ネクタイの合わせ方。好きな柄と似合う柄、ビジネスにふさわしい柄がなかなか一致なくて。男性社会のことがわからずにチグハグな柄を選ばないように。女性ならではの視点で、合わせ方ひとつでその人の個性を引き立てるお手伝いができるようになればうれしい。

とはいえ異性のファッション。わからないことは、メンズ雑誌で調べたり、友人や知人に聞いたり、街行く人を観察したり。現在の自分への課題として研究は欠かさない。

店内のディスプレイは、毎日模様替え。スタッフの及川さんが中心となり、ターゲットの年齢をはっきりさせた陳列を心がける。なぜこの商品が目についたのか、なぜ手にしてもらえたか。ここでもお客様の行動から、現在の展示方法の反省、次の提案に結びつくヒントを探し求める。

一先日あそこに掛けてあったセーターは？と尋ねられても、毎日変えているのでわからない！なんて失敗も(笑)。でもお客様がお買い物以外でも楽しめる遊びの空間も必要だと思うから、ディスプレイには、ことのほか気を使っています。

英字新聞、フランス映画のフィルムとこだわりのディスプレイ小物から、会



話の花が咲くことも。会社の仕事、KFSの仕事と連日連夜忙しく飛び回る母親を見ていると、自分もウカウカしてられない、もっともっと努力しなければ、と仕事への意欲が湧いてくるという。

店名「カタライザー」が意味する「ファッション情報を服を媒体として顧客に伝えよう」という思いは、理恵さんの一生懸命な接客、こだわりのディスプレイから伝わってくるようである。

●MEN'S HOUSE GROUP Catalyzer  
神戸市中央区三宮町1-8-1116

TEL 078-331-3915



■5月マンズリー講座  
「ショッピングマナーについて」  
講師：池本義治氏（大丸神戸店）  
中村妙子さん（メンズハウスグループ代表）  
山下みか子さん（ル・ヴェール代表）  
日時：5月23日（金）18：30～  
場所：神戸市勤労会館

# 「明日へ！ 神戸」

## ヴィッセル神戸の大きな船出

牛尾 淳  
（A M神戸アナウンサー）



「明日へ！ 神戸」の横段幕をかかげ、鹿島へ応援に駆けつけたヴィッセル神戸のサポーター

4月16日（水）、神戸ユニバー記念競技場。Jリーグ昇格1年目のヴィッセル神戸が明日に向かって歴史的な一步を標した。

キャプテン永島昭浩の劇的な延長Vゴールで昨年2位の名古屋グランパスエイトを下し、Jリーグ初勝利を飾った。Jリーグ2試合目、しかもホーム開幕戦での勝利にスタンドも歓喜に酔いしれた。

ヴィッセル神戸誕生から3年目。様々なアクシデントを克服し、着実にチーム力をアップさせてきたバクスター監督と

4月12日Jリーグ開幕、鹿島アントラーズ戦。ビッケルの先制ゴールに大喜びの永島キャプテン

スター監督と

さらに、応えた選手たち、それにサポーターの後押しでつかんだJリーグ初勝利だ。

### ナビスコ最終戦で公式戦初勝利

Jリーグに昇格したヴィッセル神戸は、1月18日にどこよりも早くチーム作りをスタートさせ、2月8日から20日までオーストラリアキャンプを行った。

JFLからJリーグへと舞台が変わったことで戦術も修正が必要だ。バクスター監督は「Jリーグでは攻め込まれるケースが多くなるだろう。そういった時にどう対処するかというバランスの修正、それに対する戦術の修正をしていかなければいけない」とキャンプに臨んだ。

このキャンプを経て、3月にはヴィッセル神戸にとって初めてのJリーグ公式戦となるナビスコカップが



月刊神戸っ子サンパチームも応援に



4月16日名古屋グランパス戦。ラウドルupp（左）ビッケル（右）が大活躍しJリーグで初勝利を納めた



3月8日ナビスコカップ第1節柏レイソル戦。1対5で完敗

始まった。

3月8日の予選第1節、アウェーでの対柏レイソル戦では、Jリーグの速さに付いていけなかったのか、柏にまったく歯がたたず1・5と完敗を喫してしまった。

3月15日、地元神戸でのJリーグ公式戦の開幕となった名古屋グランパス戦は、先制されたものの、後半永島のゴールで同点とし引き分けた。

3月19日、サンフレッチェ広島戦。永島を欠いたヴィッセル神戸は0・1で広島に敗れてしまった。

3月22日、再び名古屋グランパスと対戦。0・3で完敗。予選リーグ敗退決定。

3月26日、サンフレッチェ広島戦。常に先手をとるも2・2の引き分けに持ち込まれてしまった。

そして3月29日、ナビスコカップ最終戦。神戸ユニバー記念競技場での対柏レイソル。前半は互角の展開で0・0。後半柏のエジウソンに弾丸シュートを決められたが、ラウドルuppが同点ゴール。終了間際には昨年のチーム得点王ジアーロが逆転ゴールを決め、Jリーグ公式戦初勝利を手にした。しかし、この初勝利を目にした人はわずかに1740人。Jリーグ公式戦最低記録だったのはあまりにも寂しい。

試合後バクスター監督は「ナビスコカップを通じて成長がみられた。DFや組織力、FWへのコンビネーション、サポートプレーも向上して

いる。リーグ戦に入っても、きょうのようなゲームができれば面白い1年になるだろう。」と締めくくった。

## Jリーグ2試合目で初勝利

そして4月12日いよいよJリーグが開幕した。ヴィッセル神戸の初戦の相手は昨年のチャンピオン鹿島アントラーズだ。

大半の人が鹿島の一方的な展開を予想していたが、先制したのはヴィッセル神戸だった。前半24分FKをビッケルが得意の左足で直接ゴールを決めた。

33分に同点とされたが、38分にはミスターヴィッセル永島がラウドルuppからのワンツーパーを見事に決めて2・1と再びリード。しかし、前半終了間際に追い付かれ、勝負は後半へ持ち越された。

後半は、さすがに昨年の覇者と思わせる速攻で鹿島アントラーズが開始早々に立て続けに2点をゲットし、勝負がついた。

力と経験の差が現れた試合だったが、カシマサッカースタジアムに詰めかけた数少ないヴィッセルサポーターは前半の戦いぶりに大いに満足し、惜しみなない拍手を選手たちを送っていた。

そして、ホーム開幕となる4月16日、相手はナビスコカップから3試合目の対戦となる名古屋グランパスエイト。広島戦の前半の戦いぶりが



3月26日ナビスコカップ予選サンフレッチェ広島戦でのヴィッセル神戸、スターティングメンバー。マスコットのモーヴィも一緒に。左上から、石末、ジヤード、ラウドルップ、ビックル、森、永島、左下から神野、吉村（寿）、吉村（光）、幸田、内藤（直）

ら、この試合でひとつとしたらという期待感がスタジアム全体を覆っていた。

ホーム開幕戦ということで、試合前のセレモニーでは「月刊神戸っ子」のサンバチームがムードを盛り上げていた。やはりサッカーにはサンバのリズムが合うのか、この日のヴィッセルも立ち上がりからリズムがよかった。

鹿島戦に続いてこの日も先制したのはヴィッセル神戸だった。前半16分、デンマークナショナルチームのボー・ヨハンソン監督も見つめる中、ラウドルップがゴール前に運び、冷静な判断で永島へパスを通し、パスを受けた永島が確実に決めて先制。

しかし鹿島戦同様、終了間際にCKから得点を許し同点で折り返す。鹿島戦はピッチにいる選手

もベンチのバクスター監督も同じだった。

試合後、永島は「同じことを繰り返したら、このチームは何なんだということになる。だから絶対に勝ちたかった」と。

この試合ではメンバーからはずれた和田昌裕も「名古屋戦は、みんな気持がはいっていた」と振り返っていたが、この試合では気持がきれることはなかった。

後半に入ってヴィッセル神戸は防戦一方という展開になったが、よく踏ん張り、名古屋のシュートミスにも助けられて同点のまま延長戦へ突入。

延長前半の終了間際、ヴィッセル神戸は途中出場のDF青貴哉からのパスカットによるボールを、永島がゴール右隅に決勝のVゴール。劇的な勝利に、ナビスコカップでの初勝利の時に以上にスタジアムは興奮に包まれた。

Jリーグ初勝利をあげたバクスター監督は「前半は鹿島戦と同じようにきつちりとできた。後半は組織力が落ちた時間帯があったが、落ち着きを取り戻した。自分たちを信じてやれば、十分にJリーグでも勝ていくことができる」と手応えを掴んだゲームだったようだ。

## 「明日へ！ 神戸」

名古屋戦勝利の翌日、西神南のい



「いつでも出られる状態にある」と和田選手（左）。  
牛尾淳アナウンサー（右）



デンマーク代表チームのヨハンソン監督（左）はバ  
クスター監督（中）とも旧知の仲



ラウドルップとビッケルの取材をするデンマークのテレ  
ビ局

ぶきの森にあるヴィッセルの練習グラウンドを訪ねた。

グラウンドにはデンマークのテレビ局とスイスの雑誌社が取材に来ていた。日本のJリーグでプレーしている母国のスターであるラウドルップとビッケルの取材をするためである。

さらに、前日の試合を観戦したデンマークナショナルチームの首脳陣の顔もあった。ラウドルップだけを見に来たというヨハンソン監督はラウドルップのプレーについて「よく動いていたし、有効的なパスを出していた。代表としてプレーすることに何の問題もない」と満足気だった。

そのラウドルップも含め前日試合に出場した選手たちはランニングとストレッチだけで、この日の練習を終えた。表情をうかがうと皆一様に引き締まった表情をしていた。ひとつ勝っただけでうかれてなどいられないという気持ちと、Jリーグで勝つことの難しさを改めて感じているのかもしれない。

そんななかで私はある一人の選手のことが気になっていた。和田昌裕である。

AM神戸では、和田とGKの石末がパーソナリティーのヴィッセル神戸応援番組「和田・石末のヴィッセル・スタジアム」を毎週火曜日夜10時30分から放送している。私はその番組の担当ディレクターということで、どうしても二人に関しては入れこんでしまう。和田は永島、石末と

同期でJリーグでの経験も豊富だ。その和田の名前は名古屋戦ではメンバー表になかった。サブとしてもはいってなかった。和田は歴史的な1勝をピッチではなく、メインスタンドのブースで味わっていた。

和田は「Jリーグに帰ってきて、試合に出られないのは正直いつて寂しい。しかしサッカーというのは1人だけでしているわけではないし、チームとしては誰が出てても戦力が落ちないようにはしないとけない。先は長いし、自分としてはいつでも出られる状態にあるし、まったく心配していない」と私に心境を話してくれた。

私もひいき目ではなく、必ずや和田の力が必要になる時が来ると信じている。

楽しめるサッカー、勝つサッカー、バランスのとれたサッカー、ベストを尽くすサッカーをサポートにアピールしていきたいというバクスター監督。

ヴィッセルの航海はこの先は決してどんな航海になるのか。

グラウンドの片隅から「まだまだ冷静さと集中力が必要」という中村勤強化部長の鋭い視線が向けられている。

「明日へ！神戸」  
ヴィッセル神戸は明日に向かって確実に一歩を踏み出した。

PHOTO／中谷吉隆・新聞雑誌  
森田篤志・米田英男  
協力／ヴィッセル神戸

連載小説第1回

屋上のシーラカンス

木村 光理

絵／森澤 達夫



彼は机の引き出しから天国の扉の鍵を取り出した。：天国？　そう。彼の住むアパートでは、屋上のことをみんながそう呼んでいた。アパートの住人はみんな愚かで尊敬できる連中だった。その日、彼は屋上へ続くひび割れたコンクリートの階段を駆け上がった。なぜか？　天気がよかったから。階下での生活に煮詰まっていた。或いは、虫の知らせというやつ。どれだか彼にははっきりと説明はつかなかったが、とにかく何かを彼を屋上に誘ったのだ。

緑のペンキが半ば剥け落ちて内側の錆びついた金属が覗いている天国への扉。重さ二トンはあるだろう重厚で崇高な扉。その前の二メートル四方のスペースには煙草の吸い殻やシンナー遊びに使ったビニールの袋や使用済みのコンドームや乾いた人糞が散らばり、小便の臭いがんばりやりと立ち込めている。

いつもの聖域の風景。

彼はこの光景を何枚も写真にとってアルバムに収めていた。部屋の壁にも引き伸ばした写真を何枚か飾っていた。写真にリアリティをつけるために、アンモニアも振りかけた。

もちろん、扉の周りのひび割れた壁は、抽象から具象まで様々のスタイルで描かれた性器や性交の絵で埋まっている。コンクリートが剥き出しの天井からは一応裸電球が一つぶら下がっているが、こいつはスイッチを入れなくても、もちろん電気はつかない。ここはそんなやわな場所じゃない。だから、この辺りの暗闇が嫌いなら、辺りを這い回る夥しい数の蜘蛛やゴキブリが嫌いなら、ここにはこないほうがいい。彼はしかしこの場所をこよなく愛していた。彼だけでなくこのアパートの連中はみんなここに立つと、パロックの調べが頭の中に響き始める。ああ、なんて天国の入り口にふさわしい場所なんだろう。錆びついた鍵を回し、ノブを掴んで外側に押すと、扉

は軋んだ音をたてて開いた。

扉のこちら側が薄暗い闇の空間だったのに、向こう側は光の洪水。太陽に照らされてなにもかもが白くキラキラ光っている。ほんとうにこの光はパラダイスの光。素晴らしすぎて、その中に足を踏み入れることに躊躇を覚える。彼はしばらく足踏みを繰り返す。だが、三十六歩目に決心する。

ためらいなんてくそくらえ！

屋上に立った瞬間、爽やかな風が吹き過ぎていくのを彼は自分の皮膚で感じた。なんて素晴らしい大気なんだろう。こんな上等の風が吹いているなんて。地上にいては絶対に味わえない。風は甘酸っぱいカルピスの匂いさえ含んでいる。こんなにおいしい空気があれば、いつだって腹は空かない。風の道の真ん中に立ち、大口を開けて流れてくる空気の中のブランクトンを食らえばいいんだから。そう。彼には風の道がくつきりと見えた。薄くならかけた頭髮の遥か上空で交差する二十三本の道。

彼は屋上を歩き始めてすぐにウォー！と叫んだ。昨夜の雨の名残りが屋上のコンクリートの表面に点々と水溜まりをつくっていたのだ。高価なスポーツシューズを履いた彼は慎重にちつぽけな水溜まりたちを避けた。その水溜まりの一つにアメンボウが二匹浮かんでいた。発見の喜びに、ウォー！と彼はまた叫んだ。どこからやってきたのだろうか？　空からか、それとも自然に発生したのか。いずれにしても、それらはゴミではなく、アメンボウには間違いない。自分でしつかりと動いているのだから。りっぱな奴らだ。こんなところまで進出してくるなんて。きっと勇気がいったに違いない。フロンティアスピリット、開拓者魂をもったアメンボウに万歳！

彼は、コットンパンツの尻ポケットから、ウイスキーのポケット瓶を取り出すと、キャップを開け、そのままぐいっと口に運んだ。

アメンボウに乾杯！

しかし、この勇気ある二匹には悲惨な運命が待っているだろう。空からこんなに激しく太陽が照りつけているのだから。この状態はアメンボウにとって最悪だ。直視できないほど激しく照りつける光。こんなのがこのまま続くと、そのうち水溜まりは完璧に干からびてしまうだろう。保証していい。そうになると、どうなる？ アメンボウにはクモや糸トンボに変わるしか道はない。……まあ、それはそれでいいのかもしれない。勇気ある、しかし不幸なアメンボウに乾杯！

彼はウイスキーを一呑みし、偉大なアメンボウたちに称賛の言葉を吐き、称賛の踊りを踊った。もちろん自家製の、ハンドメイドのダンス。彼はスキップを踏み、横に伸ばした腕を上下させながら、水溜まりの周囲を左回りにくるくる回る。途中で少しタップも踏んでみる。そのほうが少し変化が……しかし、彼は立ち止まる。どうしてもつとぎちゃんとタップを習わなかったんだらう。もつとタップをきちんと踏めたなら俺はこんなところになかったかもしれない。カメルーンや象牙海岸でタップの踏める日本語教師として売り出していたかもしれない。

こんなところでダンスなんて踊っていったい何になるの？ 別れた女房のサキなら必ずそう言うだろう。もちろん、何の意味もない。でも、何の意味もないことでもやりたくなる時もあるのだ。あいつにはそれがわからなかった。あいつは生まれつき右足が不自由だったが、素晴らしい脚線美を持っていた。なのに、あの曲がりくねった心はなんだ……馬鹿野郎！ 天国は二物を与えずだ。くそ！ くそ！ くそ！

俯き加減の心のまま彼は屋上の床に目をやる。天国の床には、あちこち大きな亀裂が走っている。この間の馬鹿でかい地震のせいだ。あの地震はこの街の至る所に亀裂を走らせた。居酒屋の看板にも、保育園児の小さな魂にも、百歳を越す老人の背中のお瘤にも、厚化粧の女の顔面にも。あの地震の後すぐ、このアパートは全壊と認定された。天下晴れて『全壊』。それでもア



けている。この屋上、つまり天国も同じこと。この幾何学模様の亀裂たちを見よ。マンデルブロー集合のような亀裂たちを見よ。

彼は亀裂の一つに近づき、床に腹這いになってその中をのぞき込む。水もアメンボウもなかったが、代わ

パートは倒れずにいて、みんなそのまま住み続けている。部屋の壁や天井や廊下や階段、とにかく至る所に亀裂が走り、至る所でコンクリートが崩れ落ちている。それでも、何の手も加えずにみんなそのまま暮らし続



りに下着や週刊誌が詰まっている。その中から女もののピンクのパンティをつまみ出すと、彼は匂いを嗅いだ。湿った雨の匂いがした。彼はそれを尻ポケットに押し込んだ。このパンティをサキに郵便小包で送りつけてやろう。あいつはきつと感動してくれるだろう。駄目？ そうかもしれない。むしろ、きつと怒り狂うだろう。でも、天国のパンティ。それも亀裂の中から見つけたやつ。たしかに値打ちはある。付加価値はある。サンドペーパーで局部に磨きをかけておけばさらに結構。

彼は、腹這いの姿勢から一気にぐいっと立ち上がり、直立猿人を気取り、空に向かって大きく欠伸をする。それから、深呼吸を繰り返して、酸素不足の金魚のように大量の酸素を吸い込む。

その時、風の音に混じり、階下からミュージックが立ち上ってくるのに彼は気づく。音楽には沈み下ろしていくものと、高みへと上昇していくものの二種類がある。その分岐点にあるのが彼の心の音楽だ。アパートの真ん中の階にいる彼は、いつも混沌の音楽を奏でた。だが、今の彼は違った。彼は最も高みにいる。だから、音楽はひたすら上昇してくるのみ。

いいのだろうか、これで？ こんな恵まれた環境に自分がいて本当にいいのだろうか？ これは幻聴ではないのか？ 本当に現実の調べなのか？

それは半ば祈っているような、半ば叫んでいるような、少し嘆き、快感に酔っているような奇妙な調べ。聞いているだけで、心も体も塩漬けにされたナメクジのように溶解してしまいそうになる。

このミュージックの発生源は彼の隣室のアヒル飼いの九鬼さんだった。あの人はいつだってこんな奇妙な音楽に浸っている。独自の音階に独自のリズム。一種の呪文のような、一種の読経のような、限りなく宗教に近い音楽。そのミュージックに耳を傾けている彼の脳裏に別れたサキの姿が浮かぶ。

どうして別れなくてはならなかったのか？ 二人でいるより一人のほうが本当に自由なのか？ たった一人で生きることがつらくはないのか？

彼は腕時計を見る。午後二時。今頃、サキは真新しい高層ビルの三階にある井上歯科の治療室で、不自由な足を引きずりながら懸命に働いているだろう。懸命が趣味の女性。青白い蛍光灯の光の下、いつだって手の震えのおさまらない高齢の先生の助手として、歯の形をとり、セメントを練り、器具を消毒し、レントゲンをとり……  
： あーあ。こんなはずではなかったのだ。生活とはこんなものではなかったはずだ。馬鹿みたいに派手な結婚式はいったい何のためにあったのか。恥ずかしさを味わうために？ そうかもしれない。あの馬鹿げた結婚式からまだ幾らもたつてない。性格の不一致？ 一致する性格とはなんなのか？ 性の不一致？ そんなことはあり得ない。ほとんど毎日のように濃密なセックスを繰り返していたのだから。互にくたくたに疲れるまでの無制限一勝勝負。

それが突然。

何故？

いいんだ。なんだっていいんだ。

彼は象なみの大きな溜め息をつく。悩める象。それはあり得そうな気がする。

何とかしなきゃ。もしかしたら、それは生活力の問題かもしれない。現状打破。なんとも困難な響き。でも、何とかしなきゃ。だが、何ともならない。ホームレスをやるにはそれだけの覚悟と体力が必要だ。でも、それは本当か？ 彼は痛めないように目を細め、太陽がキラキラ光る空を眺めた。雲のかげら一つない。完璧に晴れ渡り、青く澄み渡った海のような空。じっと見ていると、重力の法則に逆らって、真つ逆さまに落ちていきそうなの……

いいのか、これで……  
まあいいか。まあいいんだ。なんとかなるさ。でも、やっぱりよくない。サキは出ていった。何の理由も言わずに。……しかし、理由なんて必要ない。そうだ。そうなんだ。なんとかなる、すべては。

（以下次

